

主題「よりよい人間関係を築くために表現方法や表現内容を試行錯誤し続ける生徒」の育成

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説外国語編では、外国語科における目標は「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することであり、その際、外国語教育の特質に応じて、生徒が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが重要であるとしている。本校英語科では、外国語科ならではの見方・考え方を働かせることができる言語活動を系統的・継続的に実践し、英語科における探究的な学びを実現することで、外国人旅行者や移民の増加などの多様化する社会において、相手とよりよい人間関係を築くためのコミュニケーションを図る資質・能力を育成していきたい。

昨年度の課題として、ALT や友達以外の多様なバックグラウンドをもつ他者とのコミュニケーションにおいて、適切な表現方法（目的や場面、状況等に応じた適切な英語表現の選択、情報や考えの伝え方）や表現内容（スピーチや文章等の内容構成の工夫）の調整に難しさを感じる生徒がいた。情報や考えの適切な伝え方を予測して課題を設定したものの、実際のコミュニケーションでは、英語の表現選択が適切でないことから、相手に意図がうまく伝えることができない様子が見られた。また、言語活動では、発信者に対する受信者の反応や質問が表面的にとどまったり、単元の課題解決に向けて表現方法と表現内容を試行錯誤できるようなフィードバックを十分に行うことができなかったりする様子が見られた。そこで、英語の適切な表現選択に対する支援をするとともに、発信者と受信者双方が相手意識を働かせながら、単元目標の達成に向けて学びをデザインする場を設定することより、生徒がよりエージェンシーを発揮して、自ら AAR サイクルを回していくことができるようにしていきたい。

以上のことから、今年度も継続して研究主題を「よりよい人間関係を築くために表現方法や表現内容を試行錯誤し続ける生徒」の育成とし、探究的な学びを実現するための具体的な手立てを通して実践研究を進める。

2 生徒がエージェンシーを発揮し、探究的な学びをデザインするための具体的な手立て

(1) 追究する過程における「Transable」を用いた英語の適切な表現選択に対する支援

昨年度の研究において、生徒は、「つかむ→追究する→まとめる」の単元の学習過程において、単元目標の達成に向けて、自ら課題を設定し課題解決に向けて表現方法と表現内容を試行錯誤する探究的な学びを継続的に行った。特に、「追究する」過程において、課題を解決しようと表現方法と表現内容を試行錯誤する様子が見られた。一方で、相手をもつ多様なバックグラウンドに応じた適切な英語の表現選択ができず、コミュニケーションに支障をきたすのもこの過程であった。これはコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた適切な英語表現について、自身や生徒同士だけで振り返り適切なフィードバックを全て行うことは難しいことが原因と考えた。

そこで、今年度は、「追究する」過程において、Transable（AI を限定的に搭載した添削・翻訳ツール）を導入し、英語の表現選択の支援を行う（図1）。Transable は書かれた英文の評価や改善点のフィードバック、表現同士の比較も可能である。「追究する」過程における指導手順にツールを意図的に組み入れることで、生徒が目的や場面、

単元の「学習過程」と「活動」の例	
過程	活動
つかむ	①コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を確認し、単元目標を理解する。 ②生徒が単元の個人課題を設定する。
追究する	①新出言語材料の意味や働きを理解し、言語活動に取り組む。 ②教科書本文の内容理解や題材を活用した表現活動などの言語活動に取り組む。 ③単元の課題解決に向けて、相手のもつバックグラウンドや考え方に応じて、表現方法や表現内容を試行錯誤し、工夫する。 ※単元の課題解決に向け、コミュニケーションに支障をきたし、最も試行錯誤を必要とする段階
まとめる	①単元の課題解決をするために、単元目標として示された活動に取り組む。 ②単元の学習の振り返りをする。

追究する過程における Transable 活用のイメージ

Transable による英語表現の適切さについての評価と補助

【書くことの単元での活用手順例】

- ①自力で英語の文章を書く
- ②Peer Review 1を行う
隣の人と文章を読み合い、文章の表現方法や表現内容、表現の適切さ等について話し合い、修正する
- ③Transable を使って、文章を評価する
- ④Peer Review 2を行う
Transable に提示された評価やフィードバックを基に、文章をどう校正するかを話し合う
- ※評価を全て生かすわけではなく、生徒がその中から選択する
- ⑥文章を修正する
- ⑦修正後の文章を口頭で伝え合う

＜図1 単元における学習過程と Transable 活用のイメージ＞

状況等に応じた適切な英語の表現選択ができると考える。また、適切な表現を用いて相手に情報や考えを伝えられたという成功体験を重ねることによって、自己効力感や次の学習への意欲を高めていきたい。これにより、生徒は相手とよりよい人間関係を築こうとエージェンシーを発揮し、適切な表現方法や表現内容を試行錯誤しながら、コミュニケーションを図る資質・能力を高めると考える。

(2)「附中 Can-Do シート ver.2」の活用による単元目標達成に向けた学びのデザイン

昨年度の研究において、生徒は、単元目標の達成に向けた到達度合いを記述した評価基準表（「附中 Can-Do シート」）を作成し、評価基準を基に、自分の表現方法と表現内容を試行錯誤しながら情報や考えを伝えることで、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションを図る資質・能力を高めることができたと考える。一方で、フィードバックが受信者や教師等から発信者への一方的なものになってしまったことから、受信者側の相手意識が十分に働かず、発信者が考えを深め単元目標の達成に近づくような反応や質問ができなかったり、受信者側が課題解決に向けたフィードバックを十分に行えなかったりする場面が見られた。

そこで今年度は、単元目標の達成に必要な受信者側の評価基準についても生徒の考えに基づいて記載した「附中 Can-Do シート ver.2 (図2)」を活用することで、発信者と受信者の双方が学びをデザインできるようにする(図3)。ここでの学びのデザインは、単元の学習過程におけるデザインを Study Plan Sheet を用いて行うこと(図4)、及び発信者の発話への受信者の関わり方のデザインを指す。生徒が単元目標にある資質・能力を理解し、学習活動をデザインすることを通して、エージェンシーを発揮できるようにする。これにより、よりよい人間関係を築くために表現方法と表現内容を試行錯誤し続ける生徒の育成につなげていきたい。

【聞き手の評価基準】		思考・判断・表現	受信者の評価基準
A	・批判的思考を働かせて、話し手の話す内容に適切に応じながら、自分の考えを伝えている。	・批判的思考を働かせて、5W1Hの表現に適切に用いながら質問することで、話し手の考えを深めている。	
B	・話し手の話す内容に適切に応じながら、言葉で反応を示している。	・5W1Hの表現に適切に活用して質問することで、話し手の考えを深めている。	
C	・話し手の話す内容に言葉で反応を示している。	・Yes / No で答えられるような質問をしている。	

<図2 附中 Can-Do シート ver.2 2年 Program 5>

デザイン例	デザイン方法
単元の学習過程における学びのデザイン	・評価基準を基に、Study Plan Sheet に一単位時間ごとの課題を設定する。 ・課題を解決するための学習活動を発信者・受信者双方の視点を大切にしながら立案する。
発信者の学びを広げ深める受信者の関わり方のデザイン	・発信者の学びを確認する反応・質問(Yes./No.で答える質問)を予測を基に意図的に行う ・発信者の学びを広げ、深める適切な質問(5W1Hの質問や理由、経緯を問う質問)を予測を基に意図的に行う ・批判的思考を働かせて質問をしたり意見を述べたりする。

<図3 学びのデザイン例>

単元を通した個人課題

8

来年度開催される附中English Campで実際に自分が考えた活動が採用されるように、講師のケン先生やマーク先生のニーズに応じた活動案を、まとまりのある内容で提案できるようにする。

生徒が設定した課題、学習活動計画(案)及び振り返り

時	課題	学習活動計画（案）	Reflection(振り返り)
7	講師のニーズを活動案に取り入れ、ニーズに応えていることが伝わるような内容構成で紹介できる。	ケンやマークとたくさん話す。ニーズに合うように内容を工夫する。	講師のニーズは、みんなで見える、英語を使いたくなるなどであった。みんなで見えるというものは入られていると思うが、英語を使いたくなる活動というのが難しい。
6	友達の質問を受けて、内容をさらに工夫できる。また、考えが深まったり広がったりするように、critical thinkingを使って、たくさん質問できる	I see your point,と友達の考えを受け止めつつ、意見を言ったり質問したりする。	本当にそれが講師のニーズに応いているのか？について考えを広げ深められるように、What will you do?やCan you?、Why do you think so?などと質問できた。
5	活動案に説得力が出るように、メモに根拠をたくさん集め、伝えることができる。	友達やケンとたくさん話しながら、分かった情報をメモする。	メモに活動を行うメリットや効果的な理由を集めて伝えられた。友達、みんなで見えるというのが良かった。
4	活動案について分かりやすく紹介することができる。	活動のやり方を友達とケンに紹介する。その活動がよい理由を具体的に伝える。	活動案を紹介した。活動のやり方を2時間目よりも具体的にできた。その活動が効果的な理由は伝えられなかった。
3	教科書の概要を理解して、挿絵を使って、話しながら伝えることができる。	教科書本文の音読をする。教科書の挿絵を使ってリテリングをする。	概要を理解して、挿絵を使って即興的に話すことができた。何回も繰り返しながら、より分かりやすい伝え方を考えることができた。まずは主張を言うということがわかった。
2	how toを使って、自分が提案したい活動のやり方を伝えることができる。	how toを使って、友達やケンに活動のやり方を伝える。	I'll tell you how to do English Karuta.などの表現を使って、活動紹介のスタートができた。実際の活動方法を伝える際には、別の表現が必要になった。
1		単元目標を理解し、課題を設定する。	

< 図 4 Study Plan Sheet(2年 Program 5)の一部 >

<図4 Study Plan Sheet(2年 Program 5)の一部>

3 授業実践例

(1) 単元 Program 8 A Hope for Lasting Peace

(2) 実施時期／学年／配当時間 令和7年2月／第2学年／全9時間

(3) 単元の目標

日本の中学生の平和についての考えを知りたいと思っている留学生が共感することができるように、「この2年間で得たもの」というテーマでプレゼンテーションをしよう。

(4) 実践の概要

第1時では、単元目標の達成に向けた個人課題を生徒一人一人が設定した。その後、課題解決に向けた学びの方向性の設定のために、「附中 Can-Do シート ver.2」に記載する具体的な表現方法と表現内容について生徒自身が考える場を設けた。単元目標にある「留学生が共感できる」プレゼンテーションにするには、「留学生の興味や文化的な背景に応じて、英語表現や情報等を適切に選択することができる」「批判的思考を働かせて、話し手の考えが広がり、深まるような質問することができる」などの発信者と受信者双方に必要な資質・能力を考える様子が見られた。

第7時では、単元の課題解決に向けて、「日本の平和について」の考えを2年間の学校生活で経験したこと等と結びつけながら友達に発表する生徒や自分の必要な情報を得るために ALT と会話をしたり調べ学習をしたりする生徒、聞き手役となり、複数の友達の発表を聞いて意見を述べたり質問をしたりする生徒等がいた。聞き手の生徒は、「附中 Can-Do シート ver.2」の評価基準(図2)を基に、「You said,

“Japanese students have a lot of chances to learn the importance of friendship.” When did you learn this?”などと、話の内容に適切に応じながら質問をした。また、聞き手は、話し手の発表の表現内容と表現方法がよりよくなるように「話し手から質問を投げかけよう」や「自分の経験を主張に関連づけよう」などと主体的に話し手のプレゼンテーションに関わりながらフィードバックを行った。話し手は、聞き手の反応を受けて、表現方法や表現内容を工夫しながら、繰り返し言語活動に取り組む様子が見られた。

第8時では、「附中 Can-Do シート ver.2」の評価基準を基に、プレゼンテーションの原稿についてのピアフィードバックを行い、原稿の表現方法と表現内容を修正した。修正後の原稿を Transable で校正したところ、より適切な表現への修正案が提示された。生徒は提案された表現に対して、自分が伝えたい内容が適切に伝わる表現か、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に適切に応じているかを試行錯誤し、再度プレゼンテーションの原稿を修正した（図5）。

I think Japan is a safe country because students in Japan can get a good education at school. Students have a lot of chances to learn the importance of friendship. I have learned it in moral lessons, school events and basketball club for 2 years. I think the experience in the basketball club is the most important. The practices are very hard, so it is very difficult for us to do all the practices. But we have practiced together for 2 years and have made a strong friendship. I think the experience can make Japan safer than now.	【Transable の修正案】 ①“I believe”の方が強い意見や意思を表現できるためより自信を持った表現になります。 ②“my”を加えることで、個人的な経験であることが明確になり、“significant”はより強い意味を持ちます。 【生徒の話し合いによる表現選択例】 ①強い意見を表現するために believe を使おう。 ②significant はまだ習っていない。Important なら、意味を知ってたくさん使ったので、自分の思いを表現できるから、そのままにしよう。	I believe Japan is a safe country because students here can get a good education. They have many chances to learn the importance of friendship. I have learned this through moral lessons, school events, and my two years in the basketball club. I think my experience in the basketball club is the most important. The practices are very challenging, so it is difficult for us to do all the practices. However, we have practiced together for two years and have built strong friendships. I believe these experiences can make Japan safer than now.
1 ピアフィードバック後の文章	2 Transable の修正案と生徒の表現選択	3 Transable 使用後の文章(青字は修正箇所)

＜図5 Transable を活用した表現の修正＞

4 研究の成果と課題

成果として、Transable 使用前後の生徒の英語の表現使用の適切さが向上することで、自分の情報や考えが適切に相手に伝わり、よりよい人間関係を築くコミュニケーションを行うことができた。また、「附中 Can-Do シート ver.2」を活用して、発信者と受信者双方が単元目標の達成に向けた学びをデザインする活動を行った。その結果、Study Plan Sheet に、受信者として発信者の学びに関わる意識や、自分が選択した学びを行い賛同や共感を得るなど、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションを図る力の高まりを自覚する記述が見られた（図6）。

課題としては、生徒が単元目標を基に1時間ごとの活動構成を見通し、単元全体の学びを自らデザインしながらコミュニケーションを行うことができるようになってきた一方で、既習の単元における言語活動で得た表現方法と表現内容における成功体験を振り返り、次の単元の言語活動で意図的に応用する力には、なお困難さがあることが挙げられる。言語活動では、相手のもつバックグラウンドや考え方等に応じて情報を取捨選択したり、受信者として発信者の考えを広げ深める質問をしたりして、相手とよりよい人間関係を築くコミュニケーションを行う様子が多く確認された。しかし、そうした活動の中で得た表現方法と表現内容における成功体験を内省的に捉え直し、次の単元のコミュニケーションに意図的に応用しデザインすることは、十分にできていない様子が見られた。

課題としては、生徒が単元目標を基に1時間ごとの活動構成を見通し、単元全体の学びを自らデザインしながらコミュニケーションを行うことができるようになってきた一方で、既習の単元における言語活動で得た表現方法と表現内容における成功体験を振り返り、次の単元の言語活動で意図的に応用する力には、なお困難さがあることが挙げられる。言語活動では、相手のもつバックグラウンドや考え方等に応じて情報を取捨選択したり、受信者として発信者の考えを広げ深める質問をしたりして、相手とよりよい人間関係を築くコミュニケーションを行う様子が多く確認された。しかし、そうした活動の中で得た表現方法と表現内容における成功体験を内省的に捉え直し、次の単元のコミュニケーションに意図的に応用しデザインすることは、十分にできていない様子が見られた。

5 今後の展望

今後は、生徒が既習の単元の言語活動における成功体験を振り返り、目的や場面、状況等に応じて表現方法と表現内容を主体的に試行錯誤することによって、よりよい人間関係を築くコミュニケーションを行う資質・能力を育成していきたい。自身の既習の単元における表現方法と表現内容の効果を振り返り、次の単元でのコミュニケーションに意図的に応用しデザインできるよう支援を充実させていきたい。

＜参考文献＞

- 群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』。
- 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説 外国語編』,学校図書。
- 白井俊（2020）『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』,ミネルヴァ書房。

課題	Reflection(振り返り)
自分の主張を聞いて、マリアとポリーナが共感できるようなプレゼンの原稿を工夫して書く。	マリアとポリーナを共感させるために、Many students can't go to school in Ukraine. という状況についての文を入れたが、それに続ける表現に困った。また、状況について深く知る必要があった。
日本の平和には、学校で得た仲間は大きく関わる。内容がよく伝わるように構成を意識して書く。	日本の平和は学校で仲間の大切さを教えてくれること仲間をつくる経験ができることと伝えたいところ、友達からは共感を得られた。特に経験を <u>入れることが大切だと学んだ。</u>
友達の意見を聞いて、critical thinkingを使って質問したり自分の考えを伝えたりする。	友達の意見がより深まるように、What did you learn from your experience?などのSWIHの質問を使ったり、critical thinkingを使って、 <u>I see your point, but...</u> などと意見を言えた。

＜図6 Study Plan Sheet(2年 Program 8)の一部＞